

Koryu

Ritto International Friendship Association

第15回異文化交流サロン 栗東市荒張浅柄野 太田ぶどう園琵琶湖ワイナリー

～異文化コミュニケーション in 琵琶湖ワイナリー～



ぶどう搾り体験

さる9月22日(日)、「太田ぶどう園琵琶湖ワイナリー」において第15回異文化交流サロンが開催された。今回は栗東青年会議所との共同開催ということで約150名の方が参加して盛大な行事となった。当日は曇り空であったが雨は降らず最後まで楽しさいっぱいであった。各自の名札の作成、続いて世界中の国名ビンゴゲーム！これは面白かった。キニアビスウ、レソト…等々聞いたこともない国名が飛び出してくる。「ビンゴ！」したグループから工場見学のために移動。まずは「ぶどうを房からもぎ取って搾る」という体験をしてから工場見学に。工場内にはぶどうの発酵する強い臭いが漂ってくる。生成室では水が流れ、足下をすくわれそうになる。やっとの思いで外へ出た。出口で葡萄酒の試飲…何杯も飲んでいる人もいた。

いよいよ本番のバーベキュー。会場いっばいに、みごとなまに垂れ下がるぶどうの木々のもと、それぞれのテーブルではバーベキューを頂きながら会話を楽しんだ。アメリカ、フィンランド、ブラジル、ペルー、中国等、外国籍住民約50人のうれしい参加。感想を聞いたところ、「とっても楽しい！」と、皆様非常に喜んでおられた。同郷の人だとわかって話が弾む場面も。

じゃんけんゲームでは、ひとつひとつの列がだんだん長い列になり、最後になった人に「ドジッ。」と声をかける。大人も子どもも入り交じっての楽しいゲームである。続いて、デジタルギャンズのバンド演奏。野外コンサートに向いたような雰囲気味わった後はダンスタイム。ペルー国籍のジャケリネさん、ルイスさん、ルベンさんの指導でサルサを踊る。足が思うように動かない。見よう見まねで、そのうちに何とか(?)の人。見ているだけで満足の人。それぞれの楽しみ方があったよう。



「じゃんけんぼん／」

今回のイベントでも、おひとりおひとりが交流の輪を広げていかれたことと思います。まだ異文化交流サロンに参加したことがない方、一度参加してみませんか。(M.O.)



ワデル・ロウさんはアメリカ東部のペンシルベニア州に生まれ、学生時代まで育ちました。その後、西海岸のワシントン州シアトルに移り、音楽関係の仕事に就きました。そこで留学していた法子さんと出会い、結婚しました。3年前から法子さんの実家のある栗東市に住んでいます。上の子どもさんのメロディちゃんは、明るい女の子。保育園に通っています。ナイル君はまだ8ヶ月。子育ての忙しさを法子さんと分かち合っています。法子さんの実家の仕事を手伝い、空いた時間には作曲や、日本語の勉強をすることなのですが、やはり子育てに協力する部分が多いようです。子どもさんに望むことは、礼儀正しく、強い精神を持ち、そして月並みではあるけれど、幸せになって欲しいということです。安全面やその全国的な教育の水準を考えると、日本での教育を受けさせたいと思っているそうです。

子どもの頃に、空手を習い、2段の腕前というほどの日本の文化が好きだというワデルさんが、語ってくれました。

♥♥♥ワデル・ロウさんの日本・栗東への思い♥♥♥

日本の文化は、アメリカとはかなり異なっています。アメリカに無いものを見るのはとても楽しいです。例えばお寺や神社。それらを拝観するのは好きです。食べ物といえば、アメリカでは1つのお皿で済ませるけれど、日本ではいくつか違った食べ物が別々に出されて楽しいです。

"It's quite nice."

いつでも、どこにでも出かけられるという安全で、平和な栗東が好きです。最初こちらに来るまで、とても心配していましたが、出会った人たちは親切なばかりで、いろいろお話をしてくださり、あたたかく迎えてくださったことに感謝しています。「栗東のみなさん、ありがとう。」(ワデル・ロウ)

どこかでワデルさんをお見かけしたら、お声かけください。(RIFA)

ブラジル発  RIFA [最終回] 上原久司 (ブラジル グアタバラ移住地)

～クリスマス～

ブラジルはカトリックの国といわれているが、現在はいろいろな宗教が入ってきている。それでもクリスマスが近づくと、街の中央の何百メートルもの並木には一面に電球が飾られる。どこの家も、店も、役所もツリーを飾り、国中でお祝いをする。

グアタバラ移住地では、ブラジルに来てから洗礼を受け、カトリック信者となった人達がほとんどで、移住者の70%を占めており、毎年信徒が集まってキリストの誕生をお祝いの。最近では前夜祭として、24日の夜にお祝いをするのが慣わしとなっている。約1時間、司祭によるミサが行われ、「きよしこの夜」などの聖歌をオルガンに合わせ全員で歌う。その後、子ども達のかわいいローソク行列、キリスト誕生の聖劇が舞台で演じられる。それが終わると、プレゼントが配られるが、このプレゼントは、信徒が「協力券」を購入し、その資金で用意される。最後に協力券の番号で抽選が行われ、高価な賞品ではないが、信徒からのプレゼントもあって、多くの人に当たるよう楽しいクリスマスを演出している。



夏服の市民と街中のサンタ、サンタ、サンタ



イギリス海峡

イギリス海峡に面した街、ボーンマスからEメールが届きました。今年の3月まで、RIFA日本語教室で指導ボランティアをして下さっていた水野恭子さん。今、イギリスで英語の勉強をしています。

BOURNEMOUTHにて

水野 恭子

4月の下旬にBournemouthに来て、はや半年が過ぎました。ここはイギリス南部の海沿いにある小さな街です。ここにきた当初は、毎日雨が降り、しかも、海が近いせいもあって、強風が吹き荒れ、「これがイギリスの天気か!」と驚いたものでした。イギリス人は天気の話をよくすると言われますが、本当にそのとおり!というよりも、この天気はすぐ変わりやすく、天気の話をせずにはいられないのです。そんな春も去り、6月下旬くらいから徐々に夏へと移り変わっていきました。Bournemouthは、イギリスの中でも人気のリゾート地で、美しいビーチが何マイルにも渡って続いています。ビーチ沿いには、ビーチハットと呼ばれる小さな小屋が立ち並び、みんな短い夏を思う存分堪能していました。しかし、海の水は真夏といえどすごく冷たく、とても私たち外国人には泳げるものではありませんでした(イギリス人は平気で泳いでいた!)。スペイン人の友人と一緒に日光浴をただけで、結局一度も泳がずに夏が去っていきました。夏の間は陽も高く、夜9時頃まで明るく、平日の夕方でも、家族で、ビーチでバーベキューをするなど、時間が緩やかに流れているように感じられました。



イギリスに来て一番思うことは、街の中にも、他の人たちを見ている、時間の流れがなんと緩やかなのだろうかということです。働きに出ている人たちも5時や6時には帰宅し、家族みんなで夕食を食べる。日曜日にはお店もほとんど閉まり、みんなが休みをとる。今の日本ではなかなかできることでなく、でもとても大切なことだとなつくづく考えさせられます。

開放的な夏も去り、秋となりました。気温は日本(滋賀県)よりも1ヶ月ほど早いような感じでしょうか。春のように度々雨が降り、毎日傘が手放せません。そうそう、先日、強風のため傘が壊れてしまいました。ちなみにこの日の風速は90mph!(約150kph)10月の最終日曜日には、サマータイムも終わり、今では5時には真っ暗になってしまいますが、晴れた日には美しい木々の色の移り変わりが見られ、イギリスの秋を楽しんでいます。

11月5日にはBonfire Night(Guy Fawkes' Night)というお祭りがありました。クリスマスやハロウィーンなどは日本にもなじみがあるのですが、これはイングランド独自のお祭りです。今から400年以上も昔、イギリス国内でカソリックが禁止された頃、それに反抗したGuy Fawkesとその仲間がイギリスの議会で爆薬を仕掛け、爆破をもくろみました。しかしそれは失敗に終わり、議会在場者がいなかった記念に、人々は花火やたき火をしてBonfire Nightを祝っています。当日はいたるところで花火があがり、秋の夜空を飾っていました。ところ変わればいろいろなお祭りがあるものですね。